そよかぜ

毎日新聞西部社会事業団だより

第119号　2024年6月

発行所　〒802－8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
(公財)毎日新聞西部社会事業団
発行人　尾崎　昌則
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail:s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替　01770-2-40213
ＵＲＬ　http://www.mainichiseibu-shakaijigyo.biz/

新理事長に高添氏
常務理事は尾崎氏

毎日新聞西部社会事業団は5月28日、北九州市小倉北区の毎日西部会館会議室で2024年度の定時評議員会を開き、23年度の事業報告案や決算案を承認、任期満了に伴い、理事、評議員、監事を選任した。これを受け、第1回臨時理事会で、新理事長に毎日新聞西部本社代表の高添博之氏▽新常務理事に同社営業本部局次長委員の尾崎昌則氏を選んだ。

定時評議員会では、23年度の各種募金の状況や実施した助成事業などを盛り込んだ事業報告案や決算案を審議、原案通り可決した。また、任期満了となった理事には、新たに高添氏と尾崎氏、福原学園常務理事の西田幸生氏が選任され、残る4氏は重任。監事も重任となった。

評議員は、三森輝久、坂口佳代両氏が退任、木下武氏(毎日新聞社社長室委員西部駐在)、坂本高志氏(毎日新聞社西部編集担当局長)を新たに選任し、残る4氏は重任となった。

これに先立ち、5月9日に24年度第1回通常理事会を開催＝**写真**。3月9日の23年度第2回通常理事会では、24年度の予算案や事業計画を審議。事業予算は23年度を約5百万円上回る6500万円規模となり各種事業については例年並みの内容で行うことを決めた。

◇

23年度各事業の内容は以下の別項を参照。

能登地震で救援金
災害救援事業

今期は、2023年の終わりまで大きな自然災害もなく過ごしたが、24年の元日、石川県能登地方を震源とする震度7の地震が発生、津波も押し寄せた。同県内を中心に、多くの家屋が倒壊したり、流されたりした。さらに、大規模火災も起き、同県内で200人を超す皆さんが犠牲になった。当事業団は、地震発生直後から、東京・大阪の両事業団と共に救援金を呼びかけ、惨状を知った皆さんから多くの浄財が寄せられた。当事業団は被害の大きかった石川県輪島市、珠洲市、七尾市に合わせて800万円を第一次分として贈った。

また、前年度発生したトルコ・シリア地震の救援金を現地で活動する2団体に配分。東日本大震災救援金は、福島県に30万円▽希望奨学金は、事務を担当する大阪社会事業団へ400万円送金、ともに残金は次年度へ繰り越した。

西部社会事業団への救援金・奨学金は以下の機関・団体に配分した。

【能登地震救援金】輪島市へ300万円▽珠洲市へ300万円▽七尾市へ200万円【トルコ・シリア地震救援金】国連世界食糧計画WFP協会へ100万円【東日本大震災救援金】福島県災害対策本部へ30万円【毎日希望奨学金】大阪社会事業団へ400万円【九州豪雨災害救援金】熊本県人吉市へ50万円▽鹿児島県看護協会へ35万円▽沖縄県看護協会へ80万円

◆医療福祉事業◆

医療ボランティア「福岡ファミリーハウス」へ助成　同グループは福岡市内に3施設・4部屋を確保、九大病院や九州がんセンターなどに入院する患児や家族に1家族1泊1000円という安価で宿舎を提供し、喜ばれている。当年度も募金額に左右されない医療福祉事業として社会福祉寄金から支出した。

コロナの医療従事者に支援金　新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが変更となり、医療崩壊を防ぐ目的で続けてきた募金は5月末で終了した。福岡県看護協会へ35万円▽鹿児島県看護協会へ80万円▽沖縄県看護協会へ35万円▽名護市へ80万円

児童福祉施設への新入学・卒業記念祝い品プレゼント　恒例の本団主催事業。歳末助け合い募金「愛の義援金」を財源に、児童養護施設や障害児、肢体不自由児、盲ろう児などの児童福祉施設の小学校入学と中・高校卒業予定者に、お祝いの記念品を贈っている。今年度も福岡・山口両県内の63施設402人に新1年生にはランドセルかリュックサック、手提げセット、雨具セット、図書カード(4千円分)のいずれか▽中・高校卒業予定者には目覚まし時計か図書カード(5千円分)を選んでもらい、祝い品としてプレゼントした。

合同自立体験セミナー　筑豊京築地区児童福祉施設長会が、管内の児童養護施設に在籍する中・高生を対象に、職場体験などを通じて卒業後の社会人としての自覚を促すために実施している。当期は7月9日の一日に集約して講演があった。開催に要した費用を助成した。

田川児童相談所管内児童福祉施設ボウリング大会　福岡県田川児童相談所と筑豊京築地区児童福祉施設長会が7月29日と24年2月17日の2回に分け、福岡県飯塚市の麻生塾ボウルで4年ぶりに開催した。

田川児童相談所管内児童福祉施設「フレ愛レクレーション大会」　福岡県田川児童相談所と筑豊京築地区児童福祉施設長会が9月2日、田川市の福岡県立大体育館で、12施設の子どもたちや職員が参加して4年ぶりに開催。各種競技を楽しんだ。

「一円玉募金」による無料学習塾事業を支援　「NPO法人　和む」の吉本満廣・理事長が、市民から広く浄財を集め、給付型奨学金支給するため、15年秋から始めた「一円玉募金」。国が新しい給付型制度を導入したため奨学金給付は21年度で終了。その後、経済的に困っている家庭の中学生を対象にした「無料の食事付学習塾」を新たにスタートさせ、当事業団も引き続き助成した。

青少年の自立を支える福岡の会「自立援助ホーム」年間運営費助成　児童養護施設退所後の15～20歳の青少年の自立を支援するNPO団体。23年度に4か所目の「リーブ」の運営を開始した。資金不足で厳しい状態が続いており、今期も「母の日募金」を財源に助成。「結ホーム」の老朽化した洗濯機の更新に充てた。

児童福祉施設ボウリング大会　福岡県田川児童相談所と筑豊京築地区児童福祉施設長会が9月2日、田川市の福岡県立大体育館で、12施設の子どもたちや職員が参加して4年ぶりに開催。各種競技を楽しんだ。

「一円玉募金」による無料学習塾事業を支援　「NPO法人　和む」の吉本満廣・理事長が、市民から広く浄財を集め、給付型奨学金支給するため、15年秋から始めた「一円玉募金」。国が新しい給

◆小児がん征圧事業――34団体に◆

当年度は東京、大阪と合わせ全国で34団体に1545万円を配分。第28次までの贈呈総額は4億2700万円となった。配分団体は以下の通り。

【西部管内】

にこスマ九州▽九大病院小児医療センター親の会・すまいる▽九州がんセンター小児科親の会・大きな木▽久留米大病院小児科血液グループ親の会・木曜会▽北九州市立八幡病院家族会・あおぞら会▽産業医科大病院小児がん家族会・ひまわりキッズ▽コメディカル・クラウン▽たんぽぽハウス▽レモネードスタンドinふくおか実行委員会

【東京・大阪管内】

がんの子どもを守る会(含むスマートムンストン)▽難病のこども支援全国ネットワーク▽公益信託日本白血病研究基金▽ファミリーハウス▽スマイルオブキッズ▽メイク・ア・ウィッシュ　オブ　ジャパン▽そらぷちキッズキャンプ▽小児脳腫瘍の会▽アジア・チャイルドケア・リーグ▽パンダハウスを育てる会▽ゴールドリボン・ネットワーク▽あいち骨髄バンクを支援する会▽ぷくぷくばるーん▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」▽京都ファミリーハウス▽近畿小児血液・がん研究会▽しぶたね▽守口ぶどうのいえ▽日本クリニクラウン協会▽こどものホスピスプロジェクト　ＴＳＵＲＵＭＩこどもホスピス、チャイルド・ケモ・サポート基金▽名古屋小児がん基金▽三重大学病院小児科父母の会・ひだまり▽京都・がんと生殖医療ネットワーク　　34団体　1545万円

◆海外難民救援事業――20団体へ◆

毎日新聞社会事業団が、毎日新聞紙面との連動で1979(昭和54)年から「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」として始めた海外難民救援事業は、2023年度で45年目を迎えた。大阪社会部がパレスチナ難民を取材するべく検討したが、記者の安全面で課題が多く、準備は進めるものの、年度内のキャンペーン取材は見送った。それでも、紛争などのため、世界各地で多くの人たちが苦しんでいることを知った読者から浄財が寄せられた。

西部社会事業団は、東京、大阪両事業団とともに、国際機関の日本ユニセフ協会や国連ＵＮＨＣＲ協会、「ペシャワール会」「ロシナンテス」をはじめとするＮＧＯなど19団体に総額1270万円を届けた。キャンペーン当初からの救援金の総額は17億1988万8344円になった。海外救援金の配分先は以下の通り。

【西部管内】

ペシャワール会▽ロシナンテス▽国連世界食糧計画WFP協会▽国境なき医師団日本

【東京・大阪管内】

国連UNHCR協会▽国連世界食糧計画WFP協会▽日本ユニセフ協会▽国境なき医師団日本▽日本国際ボランティアセンター(ＪＶＣ)▽難民を助ける会(AAR Japan)▽シェア＝国際保健協力市民の会▽AMDA▽シャンティ国際ボランティア会▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽難民支援協会▽緑のサヘル▽バーンロムサイジャパン▽ネパール震災プリタム実行委員会▽Piece of Syria▽CLOUDY▽Inna Project

20団体　1270万円

◆障害者福祉事業◆

助成・援助の事業件数としては最も多く、今期は新規1件、継続事業14件で計15件。うち名義後援のみは4件だった。

北九州精神障害者福祉会連合会バスハイク▽第48回「わたぼうし音楽祭」▽「声の点字毎日」発行▽第91回全国盲学校弁論大会▽第34回北九州市障害者水泳大会▽九州地区聾学校体育・文化連盟大会▽高次脳機能障害啓発研修会の助成▽第42回北九州市障害者ボウリング大会▽第42回「出発を励ます集い」▽中間市手をつなぐ育成会クリスマス会▽日本ふうせんバレーボール協会運営費助成

◇名義後援事業◇第60回点字毎日文化賞▽第61回北九州市障害者スポーツ大会▽第42回肢体不自由児・者の美術展▽第34回全国ふうせんバレーボール大会

◆高齢者福祉事業◆

「80歳からの合唱団北九州」運営費助成

「80歳からの合唱団北九州」は、①歌うことで健康寿命を延ばす②歌うことで生きがいができる③歌うことで仲間をつくる④歌うことで社会に貢献する(地域のイベントに参加、福祉施設や病院等を慰問する)⑤合唱仲間で生きる楽しみをつくる――が目的。

現在は120人が参加、月1回の練習には100人ほどの団員が参加している。年1回「ウェルとばた」でのコンサートを開き(新型コロナのため２０～２１年は中止)、各区でのクリスマスの催しにも出演して元気な歌声を響かせている。費用は団員の会費でまかなっているが、活動を充実させるため、遺贈寄付(高齢者福祉での利用を希望)から運営費を助成した。

◆福祉団体助成事業◆

今期は、前年度と同じ12団体に助成金を贈った。いずれも継続事業で、前年度並みの助成をした。

あしなが育英会へ助成▽福岡、北九州、佐賀、大分の「いのちの電話」へ助成金▽「福岡盲ろう者友の会」活動費助成▽ホームレス支援のNPO法人抱樸に助成金▽山口県共同募金会▽福岡県交通遺児を支える会▽九州盲導犬協会▽北九州あゆみの会▽北九州市障害福祉ボランティア協会

編集後記　◆能登半島地震で被災した多くの方々を支援するため、当事業団には皆さんから多くの浄財が寄せられています。本当にありがとうございます。◆能登で起きたことは、日本のどこでも起こりうることだと思います。高齢化の進む日本の課題についても改めて考えさせられました。今期から常務理事となりました。いまも現地の復旧作業は思うように進んでおらず、これからも被災地に関心を持ち、被災者の方に思いを寄せたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。(尾)